



伊勢遺跡まつり(昨年)



ジオラマの展示と保管

伊勢遺跡とは…
 東西約700m、南北約450m、面積約30haの大規模な弥生時代後期の遺跡です。中心部には二重の柵で区画され大型建物が配置されている「方形区画」があります。区画の大型建物はL字状に整然と配置されていることから「国」の政治や祭祀を執り行う特殊な場であったと考えられています。伊勢遺跡は地域的に統合された「国」から、さらに大きな連合体(倭国)が形成される時代を知る貴重な史跡とされています。

手くすのニiform 貫頭衣



古代 ロマンは、わがまちの浪漫

伊勢 遺跡保存会～伊勢町、阿村町、住民有志たちの夢～



伊勢遺跡保存会とジオラマグループの皆さん(一部)

さまざまな活動の中でも一番大きな集大成となるのは、170分の1縮小で復元予想図をもとにしたジオラマ作りと、例年11月に開催している伊勢遺跡まつりです。

ジオラマ作りやまつり 未来の町おこしにロマン

愛好家の来訪やイベントに地元も何かしないとあかん。伊勢遺跡保存会は、伊勢遺跡の発見された伊勢町と阿村町の住民有志約50人で構成されています。伊勢遺跡の遺物が最初に発見されたのは昭和55年のことです。それから40年。調査が進むごとに遺跡の中心の大型建物群など、貴重な発見がありました。こうして考古学の専門家や愛好家が驚き歓喜した発見も、当時の住民にとっては家の建て替えや新築がなかなか進まなくなる厄介なものでした。住民の意識が変わりはじめたきっかけは、平成22年に地元の研究家が自費出版で発刊した『邪馬台国近江説』の書籍です。守山商工会議所は「卑弥呼が守山にいたかも」と夢を膨らませて、夏祭りでもりやま卑弥呼コンテスト」のイベントを主催するようにになりました。貴重な遺物が発見される度に

遺跡の見学に訪れる愛好家たちは一目でそれと分かります。メンバーが気づくと声をかけて案内をするようにしていますが同時に「場所が分かりにくい」「せうかく来たのに何も無い」など、来訪者の本音を聞くこともありました。来訪者の声に応じて、保存会のメンバーは、道標となる15枚の看板を作って町内の交差点などに設置し、遺跡の土地には復元した竪穴式住居を建てました。地元の小学生が授業で遺跡に来る時は、地域の遺跡や歴史に魅力を感じてもらえるように、児童に土器で炊いた古代米の粥を試食したり、火おこし体験してもらったりします。こんなに多彩な活動が実現したのも、住民有志の特性で、いろいろな知恵や特技、スキルを持ついろいろなメンバーが集まっているからです。

また、メンバーも将来的には守山市を代表するスポットにしていきたい。「先祖からの田畑を手放して保存する遺跡だから、勉強して立派な国の史跡にしていかないと申し訳ない」「孫や子孫に自慢できる史跡にしたい」など、伊勢遺跡を核とした夢を膨らませています。

苦勞して作り上げたジオラマや衣装は昨年10月に市立図書館の「伊勢遺跡展」でお披露目しました。今年の伊勢遺跡まつりは新型コロナウイルス感染症の影響で中止になってしまいました。それが陶器製の首飾り作りや麻織物の貫頭衣作りなど、メンバーはそれぞれの知恵と特技を活かして活動を続けています。活動の原動力となるのは伊勢遺跡を拠点とした町おこしへの夢です。保存会の北田俊夫会長は、「今年度から史跡公園の整備が開始され、遺構展示施設ガイダンスルームなどの建設が予定されているそうです。約1,900年の昔に遠い遠い先祖が残された遺跡をわが町のシンボル、地元の宝物としてロマンを育てていきたいと思っています。そして、この遺跡を地元住民のかかわりが日本一高い遺跡にしたいと願っています」と話していました。

現地説明会が行われて人が集まり、国史跡に指定されて伊勢町を訪れる愛好家などを間近に見ることが増えると、地元の住民も「わが町にそんな凄い遺跡があるのか」と徐々に興味と関心が湧いてきたと言います。そして「地元も何かしないとあかん」という機運が高まり、平成26年2月に有志による伊勢遺跡保存会が設立されました。保存会では先祖代々地元の田畑を受け継いできた人も、新しい住宅を建てて住みはじめた人も一緒に活動しています。

知恵・特技・汗を集めて 伊勢遺跡を地域の宝物に

伊勢遺跡保存会は行政や自治会とも連携して、日ごろからさまざまな活動をしています。一つは除草作業など遺跡の管理です。これはメンバー全員で汗を流します。伊勢遺跡は伊勢町と阿村町にまたがって存在し、遠方から伊勢

地元で発見された伊勢遺跡はわがまちの宝物。多くの人に遺跡のことを知ってもらい、歴史ロマンを楽しんでもらえるようにと、住民有志で活動する伊勢遺跡保存会を取材しました。

愛好家の来訪やイベントに地元も何かしないとあかん

伊勢遺跡保存会は、伊勢遺跡の発見された伊勢町と阿村町の住民有志約50人で構成されています。伊勢遺跡の遺物が最初に発見されたのは昭和55年のことです。それから40年。調査が進むごとに遺跡の中心の大型建物群など、貴重な発見がありました。

こうして考古学の専門家や愛好家が驚き歓喜した発見も、当時の住民にとっては家の建て替えや新築がなかなか進まなくなる厄介なものでした。

住民の意識が変わりはじめたきっかけは、平成22年に地元の研究家が自費出版で発刊した『邪馬台国近江説』の書籍です。

守山商工会議所は「卑弥呼が守山にいたかも」と夢を膨らませて、夏祭りでもりやま卑弥呼コンテスト」のイベントを主催するようにになりました。